



12/6

令和6年度 障害者等による文化芸術活動推進事業 劇場・音楽堂等による 共生社会実現のための人材養成講座

地域で暮らす障害者、高齢者、外国人などを含めたさまざまな人たちが出会い、つながっていくために、公立文化ホールが文化芸術をとおしてできることを一緒に考える人材養成講座を、文化庁などとともに宇土市民会館が主催して開催しました。
基調講演では、教育、福祉等の場における芸術を用いた活動を研究する愛知大学の吉野さつき教授が、これからの公共ホールは地域に暮らす一人ひとりの文化権を守る砦になるべきと解説。
熊本県立劇場の嶺浩子さんは、これまで取り組んできた社会包摂事業の事例を発表しました。
後半のクロストークでは宇土市民会館の本田館長も加わって、これからの公共ホールのあり方について意見交換しました。

サポーター会へのお誘い

宇土市民会館のお手伝いをしてくださるサポーターを募集中です。サポーター会のメンバーに登録いただき、ご都合の良い時にご協力をお願いいたします。活動内容は、自主事業の際の受付業務(チケットもぎり・パンフレット渡し)や会場係(座席案内)、花壇の花植え、サロンコンサートの企画・運営などです。詳細は会館へお尋ねください。なお、NPO法人宇土の文化を考える市民の会会員様には自主事業のお知らせチラシや会報をお届けしています。年会費(4月~3月)は1000円です。ご参加をお待ちしています。



関喜弦介さんとサポーター・ボランティアの皆さん



12月9日 宇土市の「花いっぱい運動」に参加
会館ギャラリー前の花壇に会館の職員とサポーター会で、ノースポールなどの花苗を植えました。

自主文化事業への協賛のお願い

宇土市民会館では、市民のみなさまに生の音楽や舞台芸術を通して、感動や喜び、元気をお届けするため自主文化事業に取り組んでいます。しかしながら、1人では会館まで足を運ぶことが難しい子どもたち、高齢者や障がいのある方たちにもできるだけ楽しんでいただけるよう、身近な場所にお届けするアウトリーチ事業にも取り組んでいます。こうした派遣型の事業は、その費用を鑑賞者、体験者のみなさまにご負担いただけることは少なく、宇土市からの委託料で賄わざるを得ません。そこで宇土市の企業、団体、個人のみなさまに事業の趣旨にご賛同いただき、アウトリーチ事業に対する協賛金のご支援をお願いする次第です。

◆令和5年度の実績

宇土市内の小中学校6校に、箏、和太鼓、ダンス、合唱の演奏家や指導者を延べ29回派遣
そのほか、市役所市民交流スペース、網田駅レトロ館、児童センターで邦楽ミニコンサートを開催

◆協賛金の額(年間) <企業・団体>1口5万円~ <個人>1口1万円~

*ご了承いただければ、協賛いただいたみなさまのお名前を、大ホールロビーに掲示させていただきます。

ご協力をお願いいたします



改修工事・舞台のみ利用 についてのご案内

2025年3月7日(金)までロビーのトイレ洋式化工事のため大ホールの使用が出来ません。
1月15日より「舞台のみ」のご利用には対応いたしておりますが、工事の音が響く場合がありますので、ご了承のうえお申し込みください。ご予約は電話でお願いいたします。

NPO法人 宇土の文化を考える市民の会

事務局 〒869-0433 宇土市新小路町123 宇土市民会館内

宇土市民会館ホームページ <http://www.utobunka.jp>
TEL 0964-22-0188 FAX 0964-22-0189
【休館日】火曜(祝日の場合は翌平日)



宇土市民会館HP

■年会費納入のお願い 2024年度の年会費納入ありがとうございます。未納の方は、郵便局で振込まれるか、市民会館窓口でお支払い下さい。

No.50 2025.2.10 発行

文化通信

NPO法人
宇土の文化を考える市民の会

今年も新たな「であい」を

寒い日が続きますが会員の皆さまいかがお過ごしでしょうか。

本年も宇土の文化を考える市民の会を、よろしくお願い申し上げます。

振り返ってみますと、去年は様々な事業を行うことが出来ました。これも会員の皆様のご協力あってこそであり、また会館職員の方々の熱意の賜物であると思います。

本年も様々なイベントを計画しておりますので、奮ってご参加ください。

人生様々な「であい」があります。人間同士でも文化芸術でもその「であい」によって、生き方や考え方も変わります。国語辞典で「あう」という言葉を繰ってみると、「合う」「会う」「逢う」「遭う」「遇う」などの漢字が出てきます。それぞれ意味が違います。

鎌倉時代のお坊さんに親鸞という方がおられます。その方の著書に「遇いがたくして いま遇うことを得たり」という一節があります。この「遇う」という言葉は、思いもよらないところで素晴らしい人や出来事にであう喜びを、「遇う」という漢字で表されたのではないかと思います。

今年は普段はなかなか関わることのない音楽や伝統芸能などに、ちょっと冒険して「出遇って」みては如何でしょうか？ きつと新しい発見があることだと思います。

本会がその一助となることが出来ればと願っております。

NPO 法人宇土の文化を考える会
理事長 長光 智法

これからの事業

チケット
発売中

2025

3/9

(日)

第9回 春の音楽の祭典

開演 13:30 (開場 13:00)



明るい春の訪れを喜び、共に音楽を味わうひと時を♪

『もののけ姫』の主題曲で世界中を魅了した米良美一(めら・よしかず)さんをゲストに迎えます。「もののけ姫」はもちろん、得意とされる宗教曲や、心に響く昭和の名曲など歌って頂きます。また、ラジオのパーソナリティを務める米良さんの楽しいトークにもご期待ください。

宇土・宇城の6つの合唱団によるステージ、今年のテーマは「四季」。懐かしい曲、思わず口ずさみたくなる曲など選曲も多彩です。

第1部:宇土・宇城の合唱団 (コール宝・カリョーピング・鶴城中・コールグレイセス・宇城混声・熊本アカデミー)

第2部:ゲストタイム 米良美一

●料金(当日各200円増)
<1・2階指定席>2,000円
<3階自由席>一般1,000円/高校生以下500円

2025

3/16

(日)

宇土太鼓祭 - 常世の庭 -

開演 13:30 (開場 13:00)



国指定有形民俗文化財「宇土の雨乞い大太鼓」の祭典300年にわたり受け継がれてきた宇土の太鼓文化を次の100年に繋げるため、宇土の若者達が新しい表現に挑みます。

<常世の庭>
日本神話や神道において「常世」とは、人の魂の数だけ存在し、同時にそれらは全てひとつのものであり、すべての時間が同時にある場所とされています。

受け継がれてきた雨乞い大太鼓の響きには、その時代を生きた人々の想いが込められています。

会場中がそんな音の海に満たされたとき、過去と現在が同時に存在するような突き抜けた音世界、「常世」へと繋がっていく。伝統を受け継ぐ若者達が、未知への一歩を踏み出す、その息吹を体感ください。

雨乞いの祈り。人籟はやがて地籟へ -「荘子」齊物論より-
出演:宇土天響太鼓・太鼓芸能集団「袖衣」・宇土高校和太鼓部「鼓」

●料金(全席指定)
一般2,000円/学生1,000円/ペア3,000円
子ども応援チケット5,000円